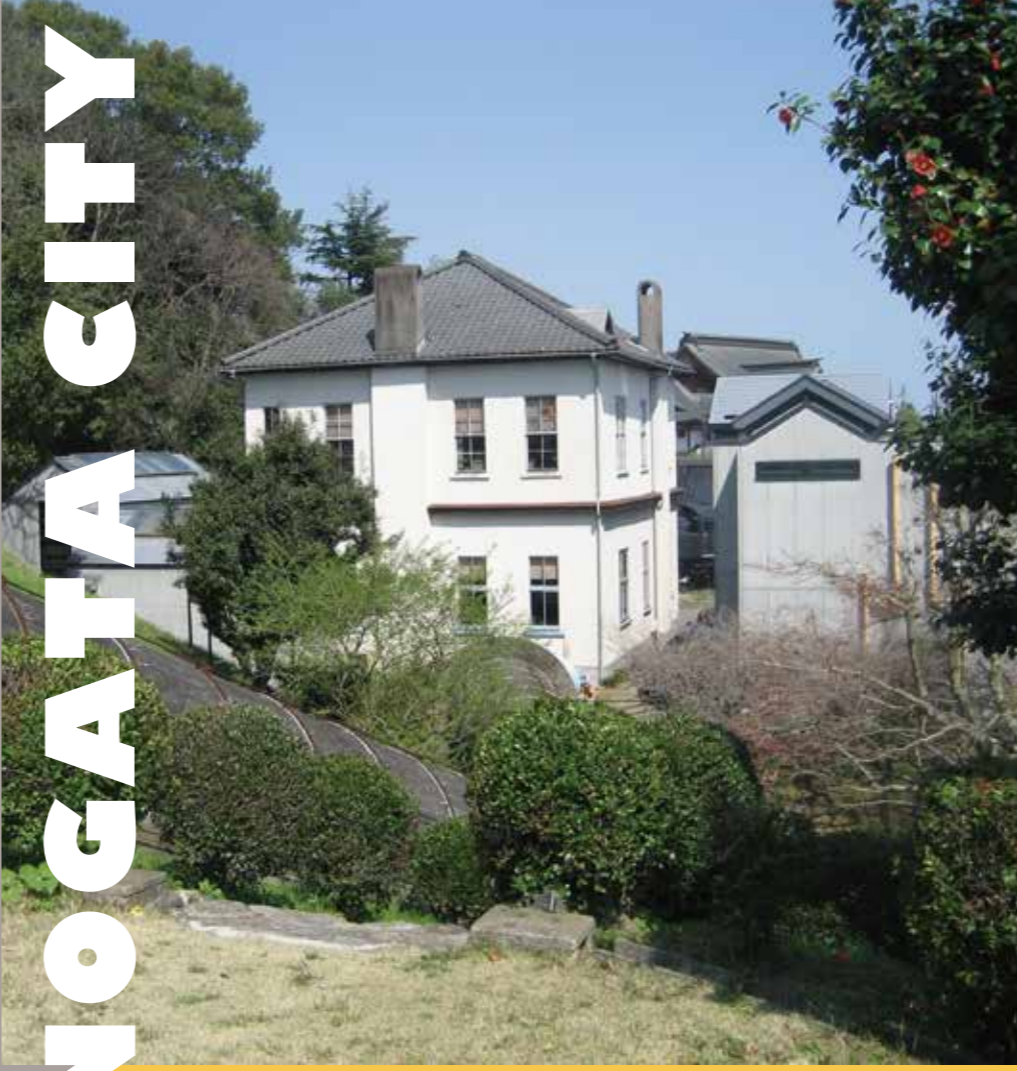


IIZUKA CITY



NOGATA CITY



全国の石炭産業をリードした筑豊石炭鉱業組合は、明治43年、直方に会議所を置きました。ここでは炭鉱経営者や財閥の責任者の間で採炭制限や鉱山保安問題、石炭輸送問題などの重要な議題が論議されました。また、死と隣り合わせであった過酷な労働環境を象徴する、炭鉱救護隊の本格的な練習施設が我が国で初めて設置され、延べ4万人以上の方が救護練習を行いました。直方の地で蓄積された炭鉱保安の技術は、全国各地に広がり、現在ではベトナムやインドネシアをはじめとするアジア各地の炭鉱に継承されています。



しゃかのおたんこう
目尾炭坑跡は明治5年に開坑、明治13年に杉山徳三郎が所有しました。翌14年に筑豊で初めてスペシャルポンプを活用した蒸気機関による排水に成功し、石炭鉱業の近代化を推し進めていく契機となった重要な炭坑です。また、明治初期以降において川舩から鉄道への石炭運搬の変遷を追うことができます。発掘調査の結果、蒸気機関による排水に成功した竪坑を覆うコンクリート製蓋とその竪坑から出る排気を外に出すための扇風機の煉瓦積台座、汽缶場・発電所関連の八角形煙突や円形煙突の基礎、給水ポンプ座や排水台座などを確認しました。



給水ポンプ座



円形煙突台座



八角形煙突



目尾炭坑



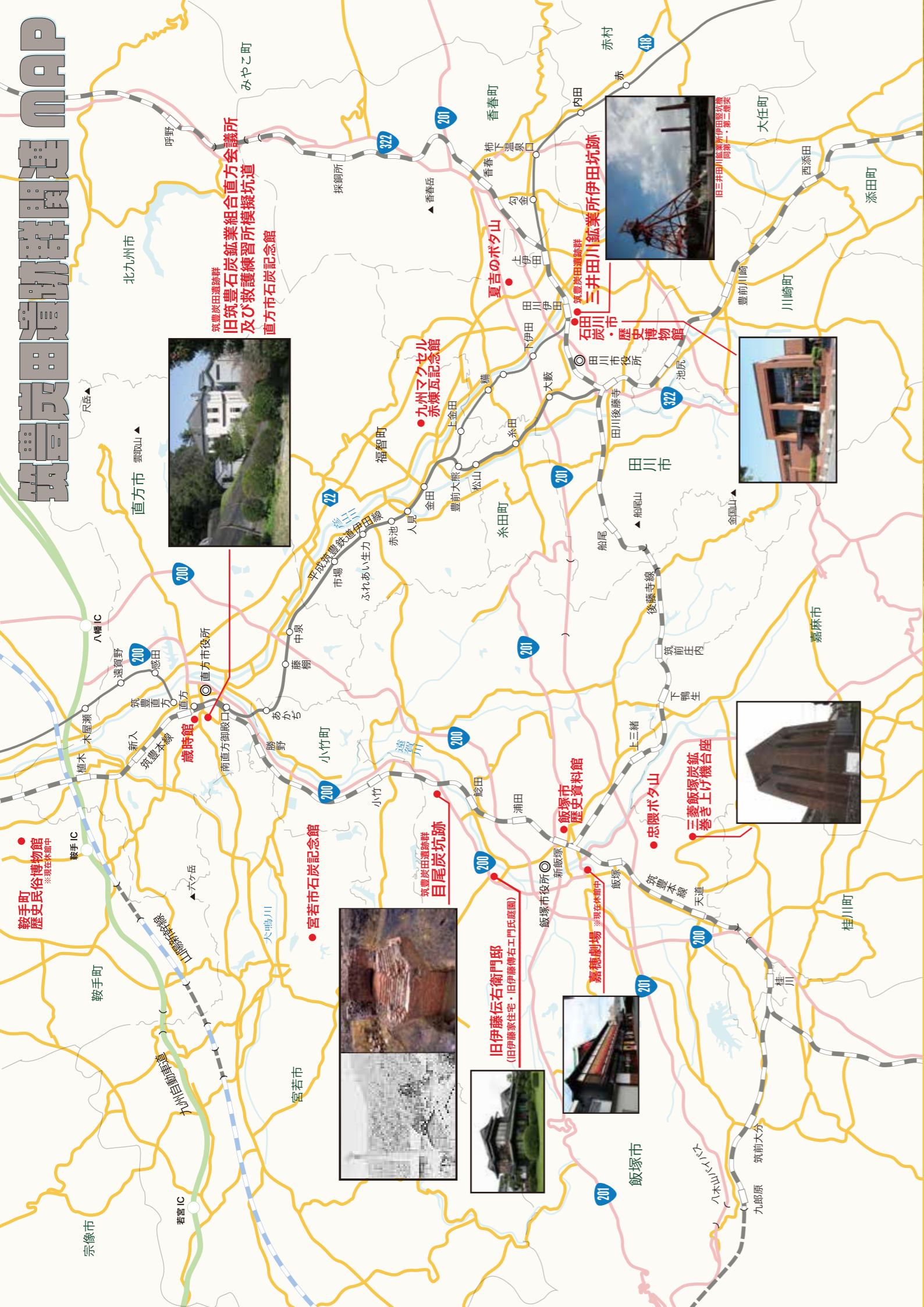
コンクリート製蓋と煉瓦積台座

伊田坑は筑豊最大級の炭鉱だった三井田川鉱業所の主力坑で、当時、日本三大竪坑と称された伊田竪坑(明治43年竣工)を擁する大炭鉱でした。現在は、竪坑槽1基と炭坑節に歌われた煉瓦煙突2基が残されており、周辺は石炭記念公園として憩いの場となっています。

また、公園の地下にはボイラー室や竪坑巻上機室などの様々な炭鉱施設の建物基礎が保存されており、石炭生産の過程を知ることができます。公園内には田川市石炭・歴史博物館があり、伊田坑跡や「山本作兵衛コレクション」から、筑豊の石炭産業史を学ぶことができます。



TACAWAMA CITY



国指定史跡 筑豊炭田遺跡群

しゃかのおたんこうあと

目尾炭坑跡

平成30年10月15日指定



国指定史跡 筑豊炭田遺跡群

ちくほうたんでんいせきぐん

福岡県北部の遠賀川流域に所在した筑豊炭田は、炭鉱開発が本格化した明治中期から昭和20年代まで、我が国最大の炭田でした。現在、筑豊地域は石炭産業を消失しましたが、日本の近代化と戦後復興を石炭で支えたことを示す重要な遺跡が残されています。このうち歴史的意義が深く、残存状況が良好な三井田川鉱業所伊田坑跡（田川市）、目尾炭坑跡（飯塚市）、旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所及び救護練習所模擬坑道（直方市）は、「筑豊炭田遺跡群」として、平成30年10月15日付けで国指定史跡となりました。

現在、石炭記念公園として市民憩いの場となっている三井田川鉱業所伊田坑跡は、かつて、筑豊最大規模の炭鉱だった三井田川鉱業所の主力坑でした。当時の堅坑櫓1基と煉瓦煙突2基が地上に現存しているほか、地下には

炭鉱施設の基礎が良好な状態で保存されています。目尾炭坑跡は、明治14年に筑豊で初めて蒸気機関によるポンプ排水が成功した場所で、筑豊炭田における機械化の嚆矢となった記念すべき炭鉱です。発掘調査では、堅坑を被覆するコンクリート製蓋や煉瓦基礎などが確認されています。直方市石炭記念館の本館である旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所は、炭鉱経営者が集まって筑豊炭田の生産制限や輸送、労働、保安などを議論した場でした。併設された救護練習所模擬坑道の主要部は大正9年竣工で、救命器具を使用した救護隊の訓練施設でした。

筑豊炭田遺跡群は、我が国を代表する炭田である筑豊炭田の主要な遺跡から構成される遺跡群であり、石炭産業を採炭、運搬、労働環境など多岐の面から理解する上で、重要な文化財です。